

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年8月10日
【四半期会計期間】	第194期第1四半期（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）
【会社名】	秩父鉄道株式会社
【英訳名】	Chichibu Railway Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大谷 隆男
【本店の所在の場所】	埼玉県熊谷市曙町一丁目1番地
【電話番号】	(048)523-3311
【事務連絡者氏名】	総務部長 森田 宏昭
【最寄りの連絡場所】	埼玉県熊谷市曙町一丁目1番地
【電話番号】	(048)523-3311
【事務連絡者氏名】	総務部長 森田 宏昭
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第193期 第1四半期連結 累計期間	第194期 第1四半期連結 累計期間	第193期
会計期間	自平成27年4月1日 至平成27年6月30日	自平成28年4月1日 至平成28年6月30日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
営業収益 (千円)	1,427,196	1,331,492	5,479,340
経常利益 (千円)	78,651	84,535	139,618
親会社株主に帰属する四半期(当期) 純利益 (千円)	77,185	142,387	131,358
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	70,690	117,269	240,893
純資産額 (千円)	10,085,213	10,372,466	10,255,211
総資産額 (千円)	23,150,965	22,935,317	22,958,227
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	5.19	9.58	8.83
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	43.5	45.2	44.6

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

2. 営業収益には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)業績の状況

当社グループは、鉄道事業を中心に輸送の安全確保を最優先に取り組み、営業活動ではイベントの実施や沿線市町・同業他社等と連携した積極的な誘客活動を実施し、収益の確保に努めてまいりました。

当第1四半期連結累計期間の業績は、営業収益は1,331百万円（前年同期比6.7%減）、営業利益は85百万円（同6.9%増）、経常利益は84百万円（同7.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は142百万円（同84.5%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

#### [鉄道事業]

旅客部門におきましては、「わくわく鉄道フェスタ」の開催や同業他社と協力したハイキング等を実施いたしました。また、SL列車におきましては、関係団体の協力のもと各種イベントを企画するなど積極的な旅客誘致に努めたことにより、前年同期に比べ定期外旅客人員は増加いたしました。一方、沿線の就学人口の減少等により定期旅客人員は減少し、旅客収入は前年同期に比べ減収となりました。

貨物部門におきましては、輸送量が減少したことに伴い貨物収入は前年同期に比べ減収となりました。

営業費用は、電力料金が値下がりしたことに加え、電力使用量の抑制など経費削減に努め前年同期に比べ減少いたしました。

この結果、営業収益は851百万円（前年同期比3.4%減）、営業利益は26百万円（同96.5%増）となりました。

#### [鉄道事業旅客人員と旅客収入及び貨物トン数と貨物収入]

			当第1四半期 連結累計期間	前第1四半期 連結累計期間	増減率(%)
旅客人員	定期	千人	1,413	1,437	1.7
	定期外	"	744	740	0.5
	計	"	2,157	2,178	0.9
貨物トン数		千トン	453	500	9.5
旅客収入	定期	百万円	195	201	2.9
	定期外	"	315	315	0.1
	計	"	511	517	1.2
貨物収入		"	272	296	8.1

#### [不動産事業]

不動産事業におきましては、賃貸物件の入居優遇キャンペーンや広告媒体を活用したことにより賃貸収入は前年同期に比べ増収となりましたが、分譲地販売及び請負工事収入は前年同期に比べ減収となりました。

この結果、営業収益は83百万円（前年同期比40.9%減）、営業利益は40百万円（同5.8%減）となりました。

#### [観光事業]

観光事業におきましては、長瀬への誘客を促進するため旅行業者への営業活動を強化いたしました。ゴールデンウィーク期間後半の来客数が伸び悩み減収となりました。

この結果、営業収益は94百万円（前年同期比5.1%減）、営業利益は5百万円（同63.2%減）となりました。

#### [バス事業]

バス事業におきましては、運行回数が減少し、使用燃料の削減等経費圧縮に努めましたが、営業収益は115百万円（前年同期比2.1%減）、営業利益は15百万円（同26.3%減）となりました。

#### [その他事業]

その他事業におきましては、営業収益は284百万円（前年同期比0.3%増）、営業損失は4百万円（前年同期は14百万円の営業損失）となりました。

(2)財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末における財政状態について、総資産は、前連結会計年度末に比べ22百万円減少し22,935百万円となりました。流動資産は前連結会計年度末に比べ、99百万円増加し1,673百万円、固定資産は122百万円減少し21,262百万円となりました。流動資産増加の主な要因は現金及び預金、受取手形及び売掛金、繰延税金資産がそれぞれ増加したことによるものであります。固定資産減少の主な要因は有形固定資産及び投資有価証券がそれぞれ減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ140百万円減少し12,562百万円となりました。流動負債は前連結会計年度末に比べ113百万円減少し3,407百万円、固定負債は26百万円減少し9,154百万円となりました。流動負債減少の主な要因は賞与引当金及びその他に含まれる設備未払金がそれぞれ減少したことによるものであります。固定負債減少の主な要因は長期借入金及び繰延税金負債がそれぞれ減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ117百万円増加し10,372百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によるものであります。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	15,000,000	15,000,000	東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	15,000,000	15,000,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成28年4月1日～ 平成28年6月30日	-	15,000	-	750,000	-	14,106

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 131,000	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,648,000	14,648	同上
単元未満株式	普通株式 221,000	-	同上
発行済株式総数	15,000,000	-	-
総株主の議決権	-	14,648	-

(注)「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の失念株式が2,000株(議決権2個)含まれております。

【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 秩父鉄道株式会社	埼玉県熊谷市曙町一丁目 1番地	131,000	-	131,000	0.87
計	-	131,000	-	131,000	0.87

(注)当第1四半期会計期間末の自己株式数は、131,597株であります。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり交代しております。

第193期連結会計年度 新日本有限責任監査法人

第194期第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間 有限責任 あずさ監査法人

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	948,299	995,184
受取手形及び売掛金	185,225	298,680
分譲土地建物	136,806	136,806
商品及び製品	28,779	28,883
原材料及び貯蔵品	95,418	98,435
繰延税金資産	-	49,187
その他	180,320	71,591
貸倒引当金	1,181	5,559
流動資産合計	1,573,669	1,673,209
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,775,699	13,775,489
減価償却累計額	9,365,781	9,407,384
建物及び構築物(純額)	4,409,917	4,368,104
機械装置及び運搬具	4,885,564	4,885,564
減価償却累計額	4,280,570	4,311,254
機械装置及び運搬具(純額)	604,994	574,310
土地	15,566,133	15,566,133
その他	654,908	654,326
減価償却累計額	587,266	590,504
その他(純額)	67,642	63,822
有形固定資産合計	20,648,687	20,572,370
無形固定資産	79,892	74,026
投資その他の資産		
投資有価証券	613,803	573,633
繰延税金資産	3,353	3,238
その他	59,594	60,253
貸倒引当金	20,773	21,414
投資その他の資産合計	655,979	615,710
固定資産合計	21,384,558	21,262,108
資産合計	22,958,227	22,935,317



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	172,156	131,849
短期借入金	1,133,498	1,220,000
1年内返済予定の長期借入金	1,199,979	1,201,153
未払法人税等	31,200	14,163
未払消費税等	53,553	78,443
繰延税金負債	220	-
賞与引当金	196,301	115,828
その他	734,410	646,431
流動負債合計	3,521,320	3,407,869
固定負債		
長期借入金	2,439,561	2,415,848
繰延税金負債	162,402	132,088
再評価に係る繰延税金負債	4,554,400	4,554,400
退職給付に係る負債	1,839,544	1,858,954
特別修繕引当金	83,200	88,400
長期預り金	102,587	105,290
固定負債合計	9,181,695	9,154,981
負債合計	12,703,015	12,562,851
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	750,000	750,000
資本剰余金	21,915	21,916
利益剰余金	842,409	700,021
自己株式	28,412	28,428
株主資本合計	98,906	43,466
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	371,909	343,646
土地再評価差額金	9,984,234	9,984,234
退職給付に係る調整累計額	13,377	10,241
その他の包括利益累計額合計	10,342,766	10,317,639
非支配株主持分	11,351	11,360
純資産合計	10,255,211	10,372,466
負債純資産合計	22,958,227	22,935,317

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
営業収益	1,427,196	1,331,492
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	1,005,802	915,468
販売費及び一般管理費	341,608	330,741
営業費合計	1,347,410	1,246,209
営業利益	79,785	85,283
営業外収益		
受取利息	5	8
受取配当金	7,059	6,914
土地物件貸付料	3,675	3,234
助成金収入	150	-
その他	4,020	3,709
営業外収益合計	14,910	13,866
営業外費用		
支払利息	14,849	12,730
その他	1,195	1,884
営業外費用合計	16,044	14,615
経常利益	78,651	84,535
特別利益		
固定資産売却益	1,729	-
工事負担金等受入額	-	10,340
補助金受入額	100	226
その他	-	934
特別利益合計	1,829	11,500
特別損失		
固定資産圧縮損	-	11,274
特別損失合計	-	11,274
税金等調整前四半期純利益	80,481	84,761
法人税、住民税及び事業税	3,149	10,063
法人税等調整額	119	67,707
法人税等合計	3,268	57,643
四半期純利益	77,212	142,405
非支配株主に帰属する四半期純利益	27	17
親会社株主に帰属する四半期純利益	77,185	142,387

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	77,212	142,405
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,632	28,271
退職給付に係る調整額	3,110	3,135
その他の包括利益合計	6,522	25,135
四半期包括利益	70,690	117,269
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	70,667	117,260
非支配株主に係る四半期包括利益	23	9

【注記事項】

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取り扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得する建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表への影響額はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
減価償却費	88,146千円	84,905千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	鉄道事業	不動産 事業	観光事業	バス事業	計				
営業収益									
外部顧客 への営業 収益	876,984	139,701	99,034	117,984	1,233,705	193,490	1,427,196	-	1,427,196
セグメン ト間の内 部営業収 益又は振 替高	4,191	1,656	218	267	6,332	90,494	96,827	96,827	-
計	881,175	141,357	99,252	118,252	1,240,038	283,984	1,524,023	96,827	1,427,196
セグメン ト利益又は損 失( )	13,517	42,770	14,857	20,369	91,514	14,092	77,422	2,363	79,785

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、索道事業、タクシー事業、卸売・小売業、建設・電気工事業及び旅行業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失( )の調整2,363千円には、固定資産未実現損益の消去額341千円、セグメント間取引消去2,022千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
 該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年6月30日）

1. 報告セグメントごとの営業収益高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	鉄道事業	不動産 事業	観光事業	バス事業	計				
営業収益									
外部顧客 への営業 収益	848,061	81,949	94,096	114,988	1,139,095	192,396	1,331,492	-	1,331,492
セグメン ト間の内 部営業収 益又は振 替高	2,999	1,656	130	837	5,623	92,467	98,090	98,090	-
計	851,060	83,605	94,227	115,825	1,144,719	284,864	1,429,583	98,090	1,331,492
セグメント 利益又は損 失( )	26,565	40,277	5,463	15,007	87,314	4,793	82,520	2,762	85,283

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、索道事業、タクシー事業、卸売・小売業、建設・電気工事業及び旅行業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失( )の調整2,762千円には、固定資産未実現損益の消去額376千円、セグメント間取引消去2,386千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	5円19銭	9円58銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	77,185	142,387
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	77,185	142,387
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,869	14,868

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 8月10日

秩父鉄道株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 金子 靖 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 関根 義明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている秩父鉄道株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、秩父鉄道株式会社及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の平成28年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成27年8月12日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成28年6月23日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。